

14)コーラルウォッチ 学習指導要領との対応		
学年	教科	学習内容
小学校3年	理科	B 生命・地球 (2) 身近な自然の観察 身の回りの生物の様子を調べ、生物とその周辺の環境との関係についての考えをもつことができるようにする。 ア 生物は、色、形、大きさなどの姿が違うこと。 イ 生物は、その周辺の環境とかかわって生きていること。
小学校6年	理科	B 生命・地球 (3) 生物と環境 動物や植物の生活を観察したり、資料を活用したりして調べ、生物と環境とかかわりについての考えをもつことができるようにする。 ア 生物は、水及び空気を通して周囲の環境とかかわって生きていること。
小学校5/6年	家庭科	D 身近な消費生活と環境 (2) 環境に配慮した生活の工夫について、次の事項を指導する。 ア 自分の生活と身近な環境とかかわりに気付き、物の使い方などを工夫できること。
小学校5/6年	道徳	3. 主として自然や崇高なものとかかわりに関すること。 (1) 生命がかげがえないものであることを知り、自他の生命を尊重する。 (2) 自然の偉大さを知り、自然環境を大切にすること。 (3) 美しいものに感動する心や人間の力を超えたものに対する畏敬の念をもつ
中学校	理科(第2分野)	(3) 動物の生活と生物の変遷 生物の体は細胞からできていることを観察を通して理解させる。また、動物などについての観察、実験を通して、動物の体のつくりと働きを理解させ、動物の生活と種類についての認識を深めるとともに、生物の変遷について理解させる。 ウ 動物の仲間 (イ) 無脊椎動物の仲間 無脊椎動物の観察などを行い、その観察記録に基づいて、それらの動物の特徴を見いだすこと。
中学校	理科(第2分野)	(7) 自然と人間 自然環境を調べ、自然界における生物相互の関係や自然界のつり合いについて理解させるとともに、自然と人間のかかわり方について認識を深め、自然環境の保全と科学技術の利用の在り方について科学的に考察し判断する態度を養う。 ア 生物と環境 (ア) 自然界のつり合い 微生物の働きを調べ、植物、動物及び微生物を栄養の面から相互に関連付けてとらえると同時に、自然界では、これらの生物がつり合いを保って生活していることを見いだすこと。 (イ) 自然環境の調査と環境保全 身近な自然環境について調べ、様々な要因が自然界のつり合いに影響していることを理解するとともに、自然環境を保全することの重要性を認識すること。 イ 自然の恵みと災害 (ア) 自然の恵みと災害 自然がもたらす恵みと災害などについて調べ、これらを多面的、総合的にとらえて、自然と人間のかかわり方について考察すること。
中学校	外国語	(1) 言語活動 英語を理解し、英語で表現できる実践的な運用能力を養うため、次の言語活動を3年間を通して行わせる。 ウ 読むこと (イ) 書かれた内容を考えながら黙読したり、その内容が表現されるように音読すること。 エ 書くこと (イ) 語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くこと。
中学校	社会(地理的分野)	(2) 日本の様々な地域 エ 身近な地域の調査 身近な地域における諸事象を取り上げ、観察や調査などの活動を行い、生徒が生活している土地に対する理解と関心を深めて地域の課題を見いだし、地域社会の形成に参画しその発展に努力しようとする態度を養うとともに、市町村規模の地域の調査を行う際の視点や方法、地理的なまとめ方や発表の方法の基礎を身に付けさせる。
中学校	社会(公民的分野)	(4) 私たちと国際社会の諸課題 イ よりよい社会を目指して 持続可能な社会を形成するという観点から、私たちがよりよい社会を築いていくために解決すべき課題を探究させ、自分の考えをまとめさせる。
小・中学校	総合的な学習の時間	